



2012年組合員投票によって決まったロゴマーク。上は吉野の山並み、下は水、それを区切る新芽をYOSHINOのYで表現しています。

ならの元気は 吉野から

その1

「吉野共生プロジェクト」とは?

吉野共生プロジェクトは、県北部の人口集中地域の奈良盆地の中(くんなか)と、人口が減少し高齢化率の高い南部・東部の山中(さんちゅう)との人・モノ・サービスの交流を深め、山中の暮らしと経済を元気にすること、また多くの組合員による「たすけあい・ささえあい・わかちあい」による共生の地域社会づくりをめざしています。吉野地域の特産品の販売促進や、小水力発電による再生可能エネルギーの活用、水ビジネスや林業のビジネスを軸とした地域の発展、医療・福祉・介護の充実など、人々の暮らしに根ざす多岐にわたる課題に取り組んでいます。JAならけん、奈良県森林組合連合会など、行政・企業・団体と協働しながら、吉野の森と水の保全と活用、自然、文化、歴史を守り、地域の産業振興や人々とのふれあいの場づくりを活動目的としています。



東吉野村つくばね発電所

なぜ「吉野」?

豊かな自然で名高い吉野郡。吉野の原生林には、山地に水を蓄え、河川の水量を調節して渇水しないようにする役割があり、奈良県の農業用水を確保するとともに、自然災害を防止しています。もしもこの吉野の自然が、林業の小規模化や就労者の高齢化とともに維持することが困難になり、植林や整備されない状態が続くとどうなるでしょうか。吉野の自然を守ることは、奈良県の農業・地産地消の取り組みを持続可能にすることに繋がります。

一方、奈良県全体の人口は2045年には100万人を下回る予測です(国立社会保障・人口問題研究所2018年3月報告)。奈良県南部地域もまた急速な人口減少(2015年対比-68.2%)がすすみ、福祉への支援、雇用創出、地域産業の振興などが課題とされています。県では2011年から「奈良県南部振興計画」(現在は「奈良県南部振興基本計画」「奈良県東部振興基本計画」として、解決に向けた取り組みがすすめられています)。ならこープと県は2011年3月に「高齢者の生活支援に関する連携協定」を結び、誰もが安心してくらせる地域社会をめざして協働しながら取り組みをすすめてきました。そして2011年9月、紀伊半島大水害(台風12号の豪雨災害)によって吉野地域は甚大な被害に遭い、ならこープは組合員募金や「災害時における物資供給等に関する協定」を通じて復興を支援しました。

これを機に、行政や地域との連携が改めて重要視されるようになりました。その後県とはさらに連携範囲を拡大する「連携と協力に関する包括協定」を2016年に結び、食だけでなく医療や福祉などさまざまな課題に対し、一緒にできる取り組みをすすめています。



2013年「南部地域産業復興推進大会なんゆう祭」

吉野共生プロジェクトは、「よりよい環境づくりと地域づくり」をめざして、2013年第41回通常総代会「感謝のつどい」でキックオフしました。2011年の東日本大震災福島第一原子力発電所事故を教訓として、ならこープは2020年に向けてならこープの「新環境政策」を2012年に策定し、原発に頼らない持続可能な再生可能エネルギーによる社会づくりをめざしました。今年はその2020年です。「たすけあい・ささえあい・わかちあい」の共生の理念のもとに、吉野の森と水を守り、そして自然エネルギーの活用による村づくり、高齢化のすすむ吉野地域に安心で安全なくらしを実現するために、一緒に頑張りましょう。

吉野共生プロジェクト
推進委員会
座長 球井照子

吉野共生プロジェクト 4つの柱

吉野の
森と水の保全と活用吉野の自然、
文化、歴史の継承

くんなか
国中

吉野の産業振興
地域経済の自立化支援

さんちゅう
山中

多数の組合員による
たすけあい・ささえあい・
わかちあい



吉野共生プロジェクトは、2011年から数々の取り組みや構想を経て、2013年4月に「吉野共生プロジェクト推進委員会」を立ち上げスタートしました。かつて古都の奈良は豊かな資源に恵まれ、人々が仲良く暮らしていました。この地で自然との共存共栄の伝統が生まれ、現代の奈良県にそれらの財産が引き継がれてきました。数多くの世界遺産をもち、共生の風土を培ってきた奈良大和の自然、伝統、歴史を守っていくことは後世への責任です。皆さんも私たちと共に、奈良を元気にしませんか。9月号・10月号にわたって「吉野共生プロジェクト」を掲載し、次回は、このプロジェクトとともにすすめている諸団体の具体的な取り組みを紹介します。

吉野の森と水を守るために募金



吉野共生プロジェクト誕生のきっかけでもある代表的な取り組みとして、「吉野の森と水を守るために募金」があります。2009年から始まり、奈良県産のお米「ひのひかり」1kgのご利用につき、ならこープとJAならけんがそれぞれ0.5円を積み立て、奈良県森林組合連合会に毎年贈呈をするものです。この募金は、「ひのひかり」の水源である吉野の森と水(IHI)を守り、森林機能の大切さを広めるための森林環境学習・林業体験や、森林保全活動などの費用に充てられます。JAならけんとは、2009年に「地産地消をすすめる会」の協定を結び、県内農産物と加工品のブランドである「食べる“なら”大和」商品を普及することで、県内の食料自給率を上げる取り組みをすすめています。

吉野の
森と水を
守るために
募金奈良ひのひかり
(全農パールライス)

高齢者の生活を守るために買い物支援と見守りサービス

吉野共生プロジェクトでは、高齢化のすすむ吉野地域の人々の生活を守るために、夕食宅配サービス、こープあつたか便移動店舗による買い物支援・商品のお届けと見守りサービスに取り組んでいます。

川上村では村と連携して過疎地域の人々の生活を豊かにするため、国の地方創生政策のモデル事業として「小さな拠点づくり」にも参加しています。



コープあつたか便移動店舗(東吉野村)

2016年設立
「一般社団法人かわかみらいふ」に配達を委託

吉野地域の関連商品

奈良 桜よしの天然水
(ハートフルコープよしの)

富有柿(西吉野産直組合)

吉野のぶなしめじ
(山本きのこ園)十津川なめこ
(上湯川きのこ生産組合)

吉野共生プロジェクトについては

ならこープホームページからもご覧いただけます →
<https://www.naracoop.or.jp/action/yoshino/>

